

サルによる針葉樹の剥皮被害について

最近、当センターに「植栽したヒノキがカモシカに食べられるがどうしたらよいか。」などの獣害に関する問い合わせが増えています。これらの獣害は全国的に増えており、長野県においてもカモシカ、シカ、クマ、ノネズミなどによる林木の被害や、サルによるシイタケや農作物の被害が大きな問題になっています。

そうした中で、今度はサルによる針葉樹の樹皮剥皮被害が発生し始め、新たな問題となっています。

今回は、この新たなサルによる被害の形態と、剥皮被害が立木に与える影響についてお話ししたいと思います。

1 サルによる剥皮被害発生地域と被害樹種

サルによる針葉樹の樹皮剥皮被害は、1987年頃から発生し始め、現在は南安曇郡の穂高町、堀金村、三郷村、梓川村、安曇村の5町村と須坂市で確認されています。またその被害面積は、過去5年間に南安曇郡5町村から報告されているだけでも、すでに110ha以上に及んでいます。

このサルによる剥皮被害を受けている樹種は、カラマツ、アカマツが主で、1995年になってヒノキにも被害が発生していることが確認されました。これらの樹種は主要造林樹種であり、その被害面積も増加してきていることから、地元の林業関係者の中では大きな問題になっています。

2 サルによる剥皮被害の形態

一般にサルは、針葉樹の樹皮はほとんど食べないとされていますが、島根県や徳島県ではアカマツの樹皮を冬に食べていることが確認されています。しかし針葉樹造林地でのサルによる剥皮被害例は、全国的にもほとんどみられません。そのためその被害について調査を行ったところ、次のようなことがわかってきました。

(1) サルに加害されていた林分の林齢

サルによる剥皮被害は、植栽5年目の若齢林から、60年生以上の壮齢林までみられました。

(2) 剥皮被害を受けている林分の状況

サルによる剥皮被害を受けているのは、現在のところカラマツ、アカマツの林分が多く、ヒノキは、梓川村の1林分で確認されているだけです。

また、その本数被害率は、林分の5%前後から30%を越えているものもみられました。

被害林分において、新しく剥皮された立木を観察すると、剥皮された立木は点在するのではなく、隣り合わせた立木が続けて剥皮されていました。

(3) 剥皮被害木の状況

堀金村の被害木での剥皮箇所の高さは、被害木の樹高によって異なっていますが、剥皮箇所を梢端からの距離で見ると、その約85%が梢端から4mまでの樹冠層部分に存在していました(図-1)。また、被害木34本中6本が2ヶ所以上剥皮されており、剥皮部位も低いほど新しく徐々に下がってきていました。

また、被害木を伐倒して剥皮部分の厚さを調査したところ、アカマツの剥皮は地上高2.9m以上でみられ、カラマツの剥皮は10.4m以上でみられていました。また剥皮された樹皮の厚さはアカマツで1.5~2mmであり、カラマツは3~5mmであ

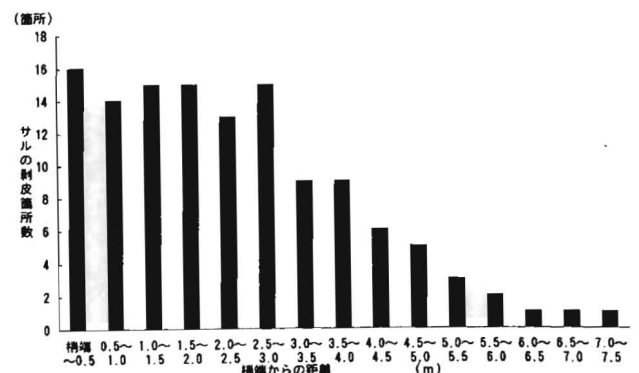


図-1 サルによる剥皮箇所の分布 (堀金村カラマツ林分)

箇所数は、区分ごと存在する剥皮部分を数えた数値

り、外樹皮が発達していない部分であった。

(4) サルによる剥皮の特徴

剥皮被害の特徴としては、次のようなことがわかりました。

①シカ、クマによる剥皮は地際から約2 m付近で行われるのに対して、サルによる剥皮は樹冠層部分で行われている。

②リス、ムササビの剥皮は、細かい剥皮片が地上に落ちているのに対して、サルの剥皮では樹皮が幹に残っている。

③春先には新たな剥皮がみられず、6～8月にかけて剥皮直後の被害木がみられることから、剥皮は6～8月にかけて行われていると見られる。

④剥皮される部分は主幹部で、枝には剥皮がみられなかった。

⑤剥皮は、幹の上から下へ行われ、梢端の付近では幹の全周にわたってバナナの皮を剥いた用に剥皮され、剥皮された樹皮は幹に残っていた(写真-



写真-1 サルによって剥皮されたカラマツ



写真-2 剥皮されたカラマツの木部の歯痕

1)。

⑥剥皮されて露出した木部には、幹に水平方向の歯痕が残っていた(写真-2)。

⑦剥皮された樹皮には歯痕がみられず、剥皮されて露出した木部に歯痕がみられることから、サルは樹皮を剥皮して木部に残った形成層部分を食害していると考えられる。

3 サルによる剥皮被害が材に及ぼす影響

被害木を伐倒調査したところ、アカマツ被害木は剥皮された部位の材だけに変色がみられました(図-2)。

これに対してカラマツ剥皮被害木では、すべての被害木で剥皮された部分から下部の心材にまで変色が及んでおり、図-2に示したとおり剥皮部分から約6 m下部まで変色がみられるものもありました。これらには、サルによる剥皮以外の傷はみられず、この変色はサルによる剥皮が誘因となって発生した可能性が強いと考えられます。

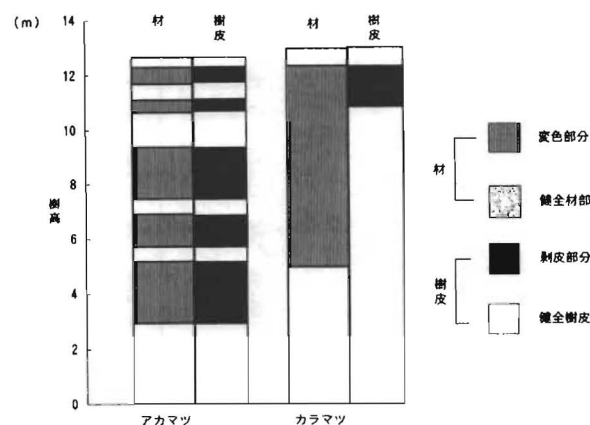


図-2 サルによる剥皮被害木の状況

4 おわりに

サルによる針葉樹の剥皮被害についてわかってきたことをお話してきましたが、夏期に剥皮を行う原因などまだ不明な部分も多く残っています。また、カラマツでは外見上の被害の他に、剥皮部分より下部の心材にも変色が及び材の価値をていかさせることから、今後もまだ不明な部分について調査を進めるとともに、被害回避法の検討をしていきたいと考えています。(育林部 岡田)